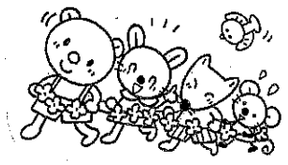
2月 かぜ・そら・たいようクラスだより

円町まどか隣保園

少しずつ日が長くなり、寒さも和らいできました。
あっという間にもう3月。今年も残すところ1カ月です。1年を通してみると、大きくなった自分への自信や集団の高まりも感じます。みんなで新しい生活を楽しみにしながら3月を過ごしたいと思います。



かぜぐみ

制作展が中止となり、子どもたちが作った作品を展示し、お家の方に見てもらう機会がなくなりました。子どもたちが楽しんで悩んで喜んで作ったものを親子で、時には保育者も交じえて子どもの思いや制作中のエピソードなどを話し改めて成長を喜び合いたかったのですが…残念です。このおたよりで制作している時の様子が少しでも伝われればと思います。

描画について

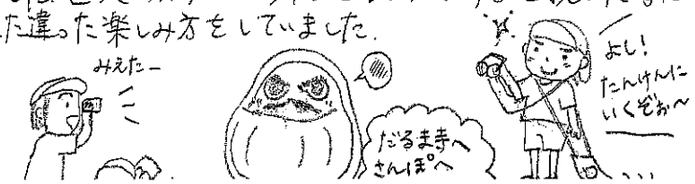
4月から絵を描く経験を積み重ねてきました。最初の頃はなぐり描きが多かったのですが、少しずつ形になり、人や物等、自分が好きな物を描くことが増えました。
かぜ組になり、より自分の好きな事がはっきりしてきて、それを絵でも表現できるようになりました。色選びもするようになり、「かみのけはくろやで」「ひんくのふくきてるねん」と楽しんでいます。個人のクレパスも使えるようになり、自由に表現することを喜んでいます。他にも絵の具、油性ペン、色鉛筆（おもに塗り絵）と使う画材も幅広くなってきました。

制作について

小麦粉粘土 は粉から作ったので、感触を味わいつつ、好きな形に作ることや柔らかい感触を手全体で楽しんでいました。こねて、まるめて、ちぎって、のばして…と友だちとお喋りしながら作ります。油粘土とは違い、作っても弱い形が崩れやすかったのですが、とにかく気持ちが良いので長い間触っている子どもが多かったです。腐りにくいようにトースターで粘土を子どもたちの前で焼いたのですが、「いえにもこれ（トースター）あるで」「…たべられるの？！」と興味津々に覗いていました

カバン は重ねたフェルトの周りをパンチで穴を空け、穴に針と糸で縫うように毛糸を通しました。やり始めると集中してどんどん隣の穴、向かい側の穴へと毛糸を通していました。持ち手となる部分は保育者が太い紐を通そうかと考えていましたが、子どもたちが「リュックにしたい」「カバンがいい」と自分で考え、毛糸を通して作ったので、そのままにしてもらいました。持ち手が長すぎたり、逆に短かすぎたり実用的ではありませんが子どもたちが使ったので手直しはしていません

双眼鏡 は今までも幾つも作っているので慣れたものでした。色つきのカラーセロファンをレンズにすると覗いた時にまた違った楽しみ方をしていました。



そらぐみ

絵を描くこと

今年は、制作展が中止になり、成長を皆で共有し、喜ぶ機会がなくなってしまい、とても残念でしたが、一年間大切にしてきたことを伝えていきたいです。
4月からペンで線描きしてから、絵の具で色をつける描き方を進めてきました。線の扱いが難しいパスや筆ではなく、細部までイメージを持って描き込んでほしいという思いからペン描きでその経験を重ねてきました。初めは苦手意識があったり、どう描き進めていいか分からなかった子どももいましたが、キュウリやスイカを見て描く観察画をきっかけに、自分の絵に手応えを感じ、自信を持ってのびのびと描くようになり、更に画用紙への空間認識が深まりました。そこから、「ここにはまどがあったな」「ここはそらやで」と背景にも気が付くようにもなっていきました。何よりのびのびと楽しんで描くことができるよう、そしてイメージが広がり、それを表現できるよう、子どもたちの話をききながら進めています。
4歳はうまくできるかな…こういう風に描きたいけど、どう描いたらいいのかな、友だちにどう見られるかな…と不安を感じる時です。
友だちの絵を真似て描くこともありますが、その中で気付き学んでいく横のつながりも大切にして、安心して表現できるよう環境も考えてやってきました。大人は紙に描き出された形や表面的なところに、とらわれてしまいがちですが、一つひとつの絵にストーリーがあり、子どもたちが生活の中で感じている色々な思いや葛藤、発見を絵の中に見つけて、その物語を感じ取ってもらえたら嬉しいです。

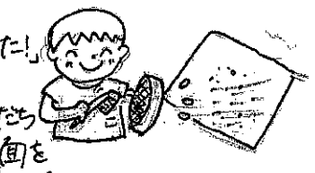
おねがい

！爪を短かく丸く、細めにゼカってきて下さい。

たいようぐみ

◎ 雪の絵

今年は雪が沢山降って園でも雪遊びをすることができたので、その様子を絵に描きました。白色の絵の具をザルにつけて紺色の画用紙の上に歯ブラシで擦って雪を表現していきます。徐々にコツを掴んで「うわ！めっちゃ雪みたい！」と何度も擦って沢山雪を降らせ、楽しんでいました。「こうやったほうがいっぱい雪でるで」と友だち同士でやり方を教え合ったり、1度終わっても「やっぱりもう1回つづきやりたい！」とさらに雪を降らせる子どももいて、満足するまで取り組んでいました。絵の具が乾いてから、次の日にクレパスで自分や友だちなどを描きました。「かまくらみたいなんつくったなぁ」「めっちゃもってた！」「ゆきがっせんのまるめたゆきもかいとこ～！」「たいようぐみのともだちみんなかいた！」と雪で遊んだ場面を思い出しながら描いていました。雪に重ならないように描こうとする子どももいれば、大胆に自分や友だちを描く子ども、偶然できた雪の形を活かして描く子どもなど様々です。またいつもとは違った技法での描画に興味を持ち、「やりたい！」と意欲的な子どもたちでした。



◎ 声を合わせて

卒園式に向けて、当日式で歌う歌を歌っています。コロナの影響で歌を歌える機会も少なかったですが、感染対策の為、マスクをつけて窓を全開にして歌っています。最初に歌った時は、初めて聴く曲に興味津々な子どももいて、少しずつ覚え始めると遊びの中のふとした時に口ずさむ姿も見られます。毎日歌う中で、「ここがむずかしかった！」「みんなここがまちがってるで！」と歌ってみて難しかったところや正しい歌詞などを、歌詞が書かれた紙で確認し合う姿も見られるようになってきました。「"あしたははれる"じゃ2回まちがえちゃったけど"なかまはたから"はぜんぶまちがえへんかった～！」「さいごのところもう1かいうたいたい！」と歌った後はそれぞれ感じたことを発言しています。日を重ねるごとにメロディーと歌詞を覚えて、自信を持って元気に歌えるようになってきました。「めっちゃ楽しい！」「"なかまはたから"すき！」「もっとうたいたい。」と友だちと声を合わせて一緒に歌うことを楽しむ姿があります。早いもので、卒園まで1ヶ月を切りました。コロナの状況もありますが、無事に卒園式を迎え、たいよう組みんなで歌うことを楽しみながら、当日も元気いっぱい歌えるよう見守りたいと思います。